

北海道旅行 1.ハマナスの咲くころ

長年、生まれ故郷である北海道へ旅をしたいと願っていましたが、7月12日にやっと実現しました。

エア・ドウがぐっと高度を下げると、眼下にジャガイモ畑、麦畑が一面に迫ってきました。畑の中の空港が女満別空港でした。知床へ行きたいのならここがまず第一歩と教えて下さったのは、北海道の大地、風物をこよなく愛して、毎年訪ねておられる友人雅子さまです。降り立つと風が違う。空が広い。静かで、少し間延びしているような異空間。ここは外国かしらと錯覚したほどです。

シャトルバスで網走へ。乗客は私たちだけになりました。網走湖、網走川に沿って、広い真っ直ぐな道を走って駅前のホテルに着きましたが、そこも森閑としています。一休みしてから夕食のため、徒歩15分ほどの市街地へブラブラ歩いて行くと、日曜日の夕方のためか、網走の広い歩道は人影が少ない。それなのに、暖簾をくぐるとほぼ満席。北海道の夜は早めに始まるようです。ホテルのクーポン券で「ソイ」の煮付けのサービスがありました。お刺身もなんとおいしいのでしょうか。また、地ビールの網走ブルーという青いビールを飲みました。こちらはご愛嬌というところでしょうか。

翌朝早くレンタカーを借りて憧れの知床を目指しました。オシンコシンの滝に立ち寄っても、意外に早くウトロに着きました。「観光船に乗って、知床の岬、オホーツクの海を眺めること」と雅子さまに教えられていました。観光船の待合場にハマナスの花の甘い香りが漂っていました。

知床連峰の山並みにはいくつも雪渓が残っています。オホーツクに面した北側の岬は柱状の岩山の絶壁になって、人を寄せ付けない厳しい姿でしたが、岩から水が浸み出て、滝がいくつか流れ落



ちていました。突然、高い崖の上にヒグマが立っているのを発見。そのそばに探索路があるとのことで、陸上での見学は出来なくなるだろうとのことでした。また、磯になっている場所にもヒグマの親子づれがいました。手つかず



の自然が残っていました。硫黄山の下にカムイワッカ(神の水)の滝が流れ落ち、そこは温泉とのことでした。オホーツクの海は霞んで遠くは見えません。絶滅危惧種と言われている赤い脚のケイマフリが楽しそうに水面で遊んでいました。壮大な野生の厳しさと自由さを見ることが出来ました。

観光船から降りると雨でした。知床半島を横断する山道でエゾシカが道路に立っていました。夜間に道に飛び出す鹿がいると聞いていましたが、昼間で幸いでした。知床半島の南側、羅臼から北方領土を眺めたいと願いましたが、海は霧で何も見えませんでした。そのまま根室海峡沿いに走り、根付半島にやってきました。国後島は遥か遠いのでしょうか。でも、根付半島は不思議な空間でした。尻尾のような半島に一本道が長く、長く延びていました。土地自体の幅はさほどなく、左右に海がみえます。その海も干潟のような感じがしました。その真ん中に道が先端まで続き、フラワーロードと名付けられています。夫はキツネが車の前を横断するのを見たといいます。



半島ではハマナスが至る所で咲いていました。雨も止み、歩き回りながら、花の香りを存分に楽しみました。キスゲ、フウロ、アヤメ、シシウド、イタドリなども咲いています。静かです。



ハマナスの苗木を八ガ岳でペンションを経営しておられた友人から頂いたことがありました。ベランダで育てましたが、暑さで弱り、消えました。残念に思っていたのです。知床半島や根付半島のような、原生の野でこそ、生き生きと香り高く咲くことができるのでしょうか。北海道の大自然の姿に心が溶けていくようでした。